港区立白金小学校

学校だより

１０月号

発行人　髙山　直也

令和６年　９月２７日

あたりまえはあたりまえじゃない

副校長　　久保田　謙

副校長の職に就いてはや半年、昨日も今日もそして多分明日も、私のもとへは様々な依頼や相談、問い合わせが入ってきます。

「◇◇について、調査をして至急回答してください。」

「教室の工事に一部終わっていないところがあるようなのですが、どうしたらいいでしょう。」

「今度、△について協議するのですけれども、打ち合わせに参加していただけますか。」

「〇〇について相談があったのですが、どのように対応すればよいですか？」

「〇△について原稿を書いていただけますか。」

「◆◆について、決済お願いします。」

などなど、学校内外、複雑なものから簡単なものまで軽重様々、多種多様です。その数だけを見れば、それこそ目の回るような忙しさです。ただ、私の目は回りません。それはもちろん、私は仕事が速いから･･･ではなく、私を支えてくれるたくさんの人がいるからです。献身的に補佐をしてくれるサポートスタッフ、校舎内の細かなところにまで目を配ってくれる主事さん方、繊細な経理に目を通してくれる事務さん、校長をはじめとした明るく前向きな先生方、学校内外でたくさんのお力添えをいただいているPTAの皆さん、子供たちの安全を守っていただいている警備さん、シルバーさん、スクールサポーター、そして同窓会はじめ、白金小を愛してくれるたくさんの地域の皆さん。そして、本校の教育活動にご理解とご協力をいただいているたくさんの保護者の皆さんと、疲れを吹き飛ばしてくれる子供たちの笑顔。今、本当にたくさんの方の力を借りて仕事をさせていただいていることを実感しています。

2学期の始業式で校長の髙山は「あたり前に過ごせることは、実はあたりまえじゃない。日常に感謝して、自分のできることを精一杯やろう。」と子供たちに呼びかけました。

日常の中で、あたりまえのように与えられていることに対して、人は鈍感になりがちです。最初は感謝していても、そのうち与えられることが当たり前になり、与えられなくなった途端不満を漏らす、そんな自分がいないでしょうか。

「実るほど、こうべを垂れる稲穂かな」

順調な時ほど、日々のあたりまえに感謝を忘れずにいたいものです。

まずは、子ども達が元気に登校してくることに感謝して、よりよい学校づくりに努めていきます。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

研究主任　玉木　脩一

例えば、誕生日にどうしても欲しいものがあり、それを親に買ってほしいとお願いするとします。すると、単に「欲しいんだよね。」と伝えるだけなく、相手が「いいよ。」と言ってくれるように、納得する理由を挙げたり、話の展開を工夫したり、強弱を付けて力説するかもしれません。つまり目的意識や相手意識を働かせて、「内容」や「伝え方」を工夫するのではないかと思います。

本校では、「目的意識・相手意識を働かせて表現できる児童の育成」を目指して、「内容」や「伝え方」を工夫して表現できる子供たちを育てる研究を行っています。そして「内容」「伝え方」を工夫する過程において、「自由進度学習」を取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が充実するよう、指導の工夫に努めています。

１０月２５日（金）は、第５０回 全日本教育工学研究協議会全国大会 東京都港区において、その実践を全国に向けて発表します。子供たちが学びを深めている様子は、タブレットからも確認することができますので、ぜひご覧になってみてください。